

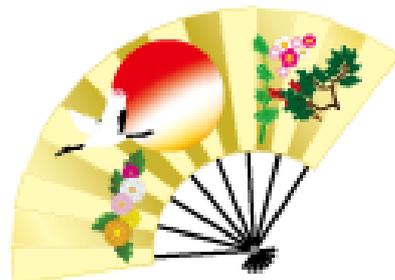


# 西東京三田会

- News Letter 35- (2025.1.1)

西東京三田会ホームページ <https://www.nishitokyo-mitakai.net/>

## 新年会を開催します



西東京三田会のみなさま、明けましておめでとうございます  
会員のみなさまにおかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます

昨年度の新年会には多くの方々に参加していただき大盛況でした。  
今年度は新たな試みとして会場をひばりが丘の素敵なお店にいたしました。  
田無からはバスですぐに来られます。  
また、おひとりでも多くの方々に参加いただき旧交を温める機会にできる  
よう準備をすすめています。  
みなさまのご参加を心よりお待ちしております。  
また、ご家族のご同伴も大歓迎です。



日時：令和7年1月26日（日）14時～16時（受付：13時30分より）

会場：イタリアン酒場 HARUTA ひばりヶ丘店（TEL：042-439-6565）

アクセスはこちら ⇒ <https://maps.app.goo.gl/C6R3EhaA5rgK9arY8>

会費：5,000円

\*まだ出欠のご連絡をいただいていない方は、下記へ**令和6年1月15日まで**に出欠をお知らせください。

メール：[nishitokyo.mitakai@gmail.com](mailto:nishitokyo.mitakai@gmail.com)

電話：070-4069-8946（事務局 横田）

ご案内担当  
西東京三田会  
事務局  
横田 均（H1 政）



## 新入会員歓迎懇親会

西東京三田会にとって、昨年は5年に一度行う新入会員の誘致年に当たっておりました。昨秋、多くの方々のご協力の中、三田の塾員センターから頂いた書類等を郵送する作業を行い、加えて、11月に行われた市民まつりでのブース出店等新しい「仲間」の獲得に団結致しました。

その結果として、9名の新入会員が入会され、私達と共に活動をして頂くことになりました。

年末のご多忙の中、新入会員の皆様にお集まり頂き、食事をして頂きながら、当会のことを少しでもご理解頂き、そして入会された皆様の「素顔」の一端を拝見させて頂く会合を持ちました。本誌では、その会合の一部を誌上公開させて頂き、新会員の皆様と、従来からの会員の皆様との、相互理解の一助となりますことを願うものです。



日時：2024年12月19日 自午後0時30 至同2時30分

場所：田無駅北口 墨花居

司会： 本日は年末でお忙しい中、お集まり頂き有難うございます。また、改めまして西東京三田会にご入会頂き有難うございます。本日は、限られた時間ではありますが、当会として皆様のご入会を歓迎すると共に、少しでも当会について知って頂ける機会になればと存じます。会からは、私達2名で、本日の対応をさせていただきます。

それでは、飲食をして頂く前に、自己紹介をして頂きたく存じます。氏名と卒年、出身学部は必ず仰って頂き、それプラス、一言付け足して頂ければと思います。

木下 英一郎さん：

平成4年法学部法律学科を卒業致しました。実は、年齢的に未だ多少若いのですが、早期優遇希望退職制度のプログラムに乗って、少々早目にサラリーマン生活を終了致しました。



大石 喜義さん：

昭和49年法学部法律学科を卒業しました。趣味はレコード鑑賞や映画鑑賞です。すでに当会のカラオケ会にも参加させて頂きました。

前田 照美さん：

令和5年文学部史学科を卒業しました。45年西東京に暮らしています。より深く勉強をしたくて通信に進みました。



鳥居 美映子さん：

平成 14 年法学部法律学科を卒業しました。田無に嫁ぎ、親の介護が終わり、子供の教育が終わり、これからはゴルフ等に頑張っていきたいと思います。

平野 秀一さん：

昭和 56 年法学部政治学科を卒業しました。2000 年から向台に居住しています。漸く仕事を終え、フリーの生活を愉しもうと思っています。

鈴木 邦昭さん：

昭和 53 年商学部を卒業しました。様々な面で、生活が落ち着いたので、これから三田会で楽しんでいこうと思います。長らく、旧保谷地区に住んでいます。

ジャスティン アカイラルさん：

現在商学部に籍を置いておりますが、休学中です。両親はフィリピン出身で、高校からアメリカンフットボールを遣っています。

各自の自己紹介が終了し、参加者全員で乾杯を行ってから、会食に移りました。会食の中では、近くの席の方々と皆さん和気藹々にお話が盛り上がりおりました。

例えば、意外にもご自宅が近い方がいらしたり、ご家族が同じゴルフ練習場に通われていたりとか、高校が同じであったりとか、思いもよらぬお話が飛び出して、急に各員の仲が近くなったように感じました。

皆さん、様々な思いを抱かれて西東京三田会に入会して下さった訳ですが、お一人ずつ、今後三田会の中で、どのような活動をしていきたいかを伺ってみることに致します。皆さん、当会の中のサークル等のことは、大変良くご存じの様子です。

木下さん：

自分としては、高校時代から音楽を遣っており、毎月金沢に行っています。音楽も好きなのですが、当会では、是非散策の会で活動してみたいと思います。

大石さん：

私も散策には非常に興味があります。木下さん同様に、散策の会には是非入らせて頂きたいです。それ以外には、カラオケ会や麻雀の会にも参加させて頂きたいと思っています。

前田さん：

私は名所旧跡を訪ねたり、簡単なトレッキングのようなことでもしてみたいと思っています。また、ゴルフの会に参加させて頂ければと思っています。





鳥居さん：

私も、山登りやハイキングには興味があります。勿論ゴルフも積極的に参加出来ればと思っています。そうしたことに加えて、英語のサークルがあれば嬉しいです。英語の書籍を皆で読むのも楽しいかと思えます。

平野さん：

今まで、積極的に外に出る機会が無かったのですが、これからは皆さんとご一緒に楽しく活動をしていきたいです。今日は、この後、所用がありお酒を頂けなかったのですが、早くお酒をご一緒出来る機会を持ちたいとも思っています。



鈴木さん：

これまでの人生は総て会社関係ばかりでした。先ほどお話ししたように、これからは、どんどん新しいことに挑戦していきたいと思っています。「まさにこのタイミング」だと思っています。

ジャスティンさん：

いままでは留学生との繋がりばかりで、なかなか日本のことが真に分かっていないように感じます。勿論日本語も話せますし、言葉の不自由はありません。でも、自分自身の枠を広げていきたいと思っています。だからこそ三田会に入会しました。

司会：今日はお忙しいなか、且つ年も押し詰まった時期にご参集頂き、本当に有難うございました。短い時間でしたが、皆様とも大変仲良くなれたと思っています。日程の関係でお二人が参加出来ませんでしたが、また次の機会に、お二人にも加わって頂き、三田会の輪をより広げて行きたいと思えます。本日は本当に有難うございます。どうか皆さん、佳い新年をお迎え下さい。そして、新年会（1月26日）でお目に掛かりましょう。



後列左から、ジャスティンさん、平野さん、木下さん、大内さん、横田さん  
前列左から、前田さん、鳥居さん、大石さん、鈴木さん



新入会員の皆さんは、当会に望んで入会下さった訳であり、三田会での今後のイベントへのご参加に大きな期待をされています。お話にも出てまいりましたが、既存の会合だけではなく、新しいサークルを作り、より積極的に会を盛り上げていければと思います。

恐らく、本日会合に参加される前は、「一体どんな方々が居るのだろう・・・」と心配されていた方も多いと思います。でも、私達は皆「義塾で学んだ仲間」です。そんな心配は無用です。これまで仕事関係ばかりのお付き合いと言われた方もいらっしゃいましたが、これからは義塾の仲間、と仲良く、そして愉しく活動してまいりましょう。そうした仲間が、同じ市内、即ち身近にいらっしゃる訳です。愉しさを是非「倍増」してまいりましょう。

また、当日は残念ながらご予約のあったお二人をご紹介します。

- ・岩田 卓さん 昭和 60 年商学部
- ・山川 幸弥さん 昭和 55 年商学部

次の機会にお会いできることを楽しみにしております。

ご興味のあるサークル活動等がありましたらお気軽にご参加ください。

大歓迎でお待ちしています。

横田均 (H1 政) ・ 大内俊 (S57 経院)



# お雑煮が結ぶ、お正月の笑顔



新年おめでとうございます。  
現在は、通年に亘りお餅が手に入る時代になりましたが、やはりお餅、取り分けお雑煮はお正月の食卓の定番であると思います。既に皆様は、お雑煮を召し上がった方々も多いと思います。

今回は、当会会員の大内俊さんにお雑煮に関する面白いお話を文章にして頂きました。大内さんはお雑煮研究者でも、お料理研究者でもありませんが、非常に多くのお雑煮に関して独自に研究をされています。今から10年以上前になりますが、西東京市の「公民館だより」の新年号に大内さんが原稿を執筆されています。当時の記事を読まれた方もいらっしゃるかと思いますが、今回改めてNLへ、大内さんのお雑煮に関する研究の一端を書いて頂くことにしました。

どうか皆様、**お雑煮を召し上がりながら**読んで頂ければと思います。

\*\*\*\*\*

よく皆さんに、「何故お雑煮について調べているのですか？」という質問をされます。当三田会の中では、あまり積極的に皆さんにお雑煮についてお聞きしていないのですが、お雑煮を嫌いな方は非常に少なく、且つ「我が家のお雑煮」が一番美味しいと皆さんが思われていると思います。そうしたことから、ビジネストークとしてお雑煮のお話をすると、皆さん非常に悦ばれ、そして和やかな雰囲気になれるものです。そうした意味からお雑煮のお話を伺うようになりました。学生の方々も、幾分緊張された講義の中で、一寸横道にズレてお雑煮のお話をすると、教室の中がとて和やかになります。やはり、皆さんお雑煮が好きなんだと実感できる瞬間でもあります。

もう一つ、私は長らくアメリカで勤務しておりましたが、駐在員の方々は取り分けお雑煮のお話がお好きでした。やはり日本を離れている分、余計に郷土のお雑煮に強い関心を持たれていることが判ります。日本を思い出すと同時に、郷里の母上の作って下さったお雑煮を思い出すのだと思います。また、単身で駐在されている方は、束の間、奥様のお雑煮を思い浮かべていらっしやっただのだと思います。お雑煮にはそうした不思議な力があるのだと思います。



そうした皆さんのお話の中で、皆さんのご自慢のお雑煮についてデータを取ることにしました。恐らくデータベースで2000~2500件位のものがあると思います。実は、近年はあまり皆様からのお話を伺い、データ収集はしておりません。ある程度のデータが有ると、ほぼほぼ日本国内のお雑煮について私なりの判断が出来るようになったこともその要因です。それでは以下にそうした「お雑煮データ」を纏めてみることにしましょう。



## お餅の形状

通常、皆さんが食べられているお餅の形状は「角」でしょうか？それとも「丸」でしょうか。本来的に、お餅の形状は丸餅が正統なのではないかと考えます。即ち、鏡餅を思い浮かべて頂ければ、丸餅が正統だと判ります。丸餅は、神鏡や御魂を象ったものと考えられていました。お正月に丸餅を頂くことで、一年円満に暮らしていけるという思いを込めているように思います。



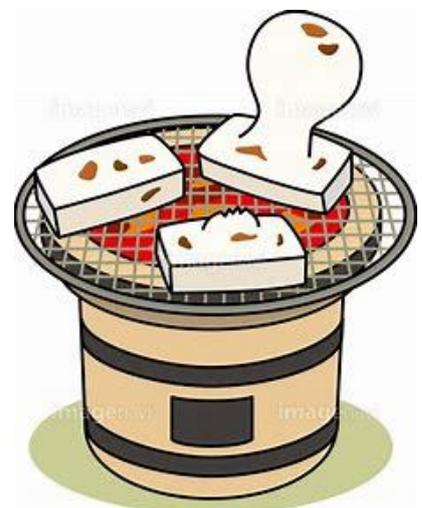
それに対して「角餅」はどのように生まれたのでしょうか。早くから武士社会に転じた東日本では、搗いたお餅を平たく伸ばした「押し餅」を作りました。この押し餅が、「敵を討ちのめす」に転じて、武士達にとっては縁起が良いということになったようです。そして東日本では、その押し餅を切って、角餅にして頂いたということでしょう。

然し、そのお餅の「角と丸」の違いは、日本列島のどの辺りが境なのでしょう。結論から申し上げますと、角餅と丸餅を区切る地域は、金沢～高山～関ヶ原～四日市～新宮辺りだと言えます。丁度、糸魚川静岡構造線（フォッサマグナ）より少々西側となります。しばしば東日本と西日本の境は？という質問に対し、関ヶ原辺りと回答するのと似ています。様々な歴史や地理的風土から、角餅文化と丸餅文化が生まれ、そして現在に続いているのだと思います。

然し、歴史的な事情により面白いことがあります。それは、山形県酒田市等の日本海側では、本来東日本の角餅であるのが、何故か一般に丸餅を食す方が多くいらっしゃいます。それは、江戸時代の北前船の寄港地であることから、関西系の丸餅が伝わったようです。このように、なんらかの事情で、周辺の町村とは違う現象も起こります。

## お餅を焼くか、煮るか・・・

次に、お雑煮に入れるお餅を焼くか、それとも焼かずにいれるのか・・・という問題があります。基本的に、澄まし出汁の場合には焼いたお餅の風味と醤油が上手い具合にマッチするという意見が多くあります。また、逆に関西以西系の味噌出汁には、焼かずにドロツとした触感が合うとも言われます。ということで、関東以北ではお餅を焼いて入れる場合が多く、関西以西では焼かずにいれるようです。然し、中京地区（三河、尾張地域）では、





「お城を焼いてはいけない・・・」という考えから、白いお餅を焼かずに出汁に入れるという風習があります。従って、お餅の焼き・煮の境界は、静岡県を境（静岡を含む）の西側が煮る文化圏で、東側が焼き文化圏ということになります。因みに、我が家では、私が東京で焼き文化、家内は埼玉で煮文化で、正月から違ったお雑煮を頂いています。

## 出汁は澄まし仕立て？お味噌仕立て？

ここまでの議論で、4つの分類となりました。即ち、角餅焼き、角餅煮、丸餅焼き、丸餅煮です。次なる分類は出汁です。お雑煮の出汁には、実に様々ありますが、ここでは醤油ベースの澄まし仕立てと味噌仕立てのお話を考えてみましょう。澄ましと言っても、鰹、昆布、飛魚（アゴ）という魚介ベースと、鶏出汁に分けて考える必要があります。そして、味噌仕立ての場合にも、一般的な畿内での白味噌仕立てと、福井県～京都府福知山、そして徳島県山間部の赤味噌仕立てに分かれます。

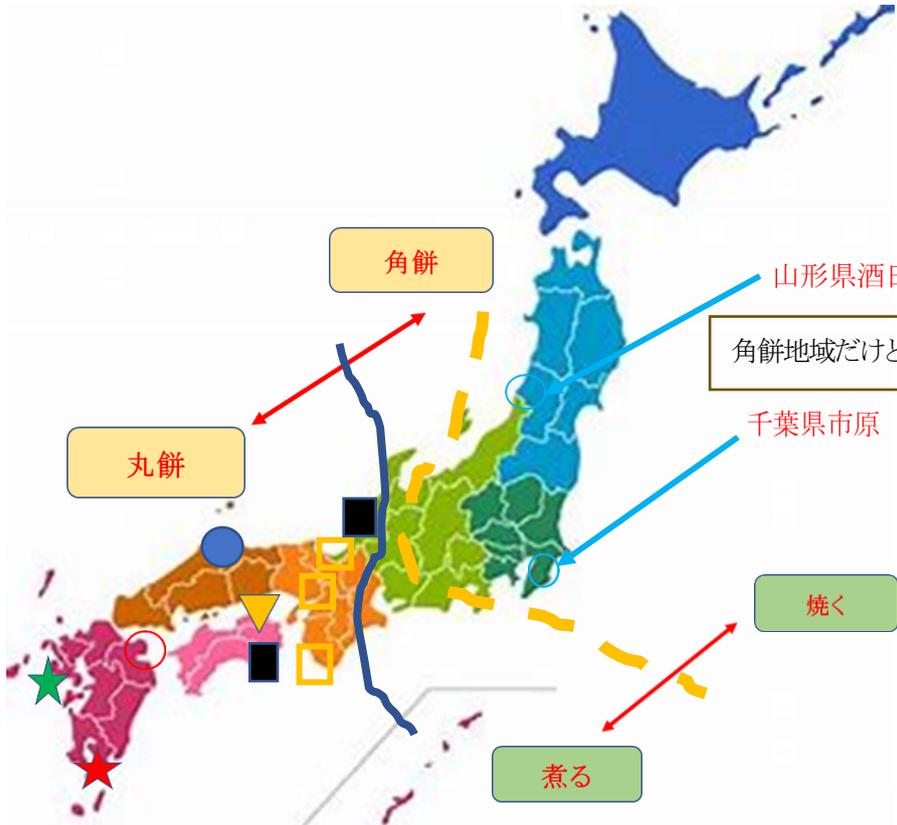
魚介出汁は、日本国中広く使われており、その中でも鰹、昆布が中心と思われれます。県別の数値（あまり参考にならないかもしれませんが）では、約7割弱の県で使われています。煮干しや焼きハゼが使われる処もあります。味噌仕立ては畿内を中心に2割強で、前述のように白味噌が中心です。鳥取県～島根県東部では小豆仕立ての出汁を使ったものもあります。また、九州南部地方（宮崎、鹿児島）ではシイタケで出汁を取っている地域もあります。このように見てきますと、4分類どころではなく、約40種類程度に細分出来ることになります。





# 日本お雑煮地勢図

本地図は、アンケート分析から筆者が作成したものです。



- 白味噌
- 赤味噌
- 小豆汁
- 角・丸・焼・煮混在地域
- 角餅・丸餅分岐線
- 「焼・煮」構造線
- 小豆丸餡餅
- 焼・煮混在地域
- ★ 角・丸・焼・煮・澄まし・赤味噌混在



## 各地のお雑煮に見る文化的特色

上述の地図で見て頂いたように、各地には様々なお雑煮文化が存在しています。それは、先祖代々受け継がれてきた貴重な文化だと思います。確かに、角餅や丸餅、そして焼き餅や煮餅等の違いがあり、加えて澄まし仕立てや味噌仕立て等の違いもあります。然し、いずれも自身が育った地域のお雑煮が、「最高に美味しい」と思っているらしいです。それが紛れもなく地域文化であり、地域の特色がお雑煮に生かされていると思います。それでは数例ですが、特色のある全国のお雑煮をご紹介します。

### 長崎のお雑煮

長崎県のお雑煮は、地域によって角餅、丸餅、そして焼き餅、煮餅が混在しています。それだけ各地との交流が盛んな土地柄だったとも言えます。特徴は、大きな土鍋に沢山の具材を入れて頂きます。お肉は鶏肉が多いようです。それに蒲鉾、竹輪、薩摩揚げ等の練り物に加え、高野豆腐も入れます。野菜は、椎茸、牛蒡、人参、白菜、蓮根、そして水菜を入れる豪快なものです。

地域によっては、鰯を入れたり、卵焼きを入れたり、「長崎雑煮」は兎に角、具が目一杯なのが特徴です。

### 新潟のお雑煮

新潟のお雑煮は、海岸部と山間部で違いが顕著ですが、ここでは海岸地域のお雑煮をご紹介します。

新潟のお雑煮には、里芋、椎茸、人参、牛蒡、大根と野菜がたっぷり入っています。そして蒟蒻、若しくは白滝が入ることもあります。何と言っても、新潟名産の鮭が入っていることが最大の特徴で、イクラもトッピングされた豪華版です。

恐らくお雑煮を頂く時には、外は雪で埋もれているかもしれませんが、お雑煮を頂き、活力を付けて、皆さん、雪下ろしに励まれることと思います。





### 奈良のお雑煮

奈良のお雑煮は、作り方も、具材も、総てに拘りがあると思います。現在は、そこまで遣っている方は少ないかもしれませんが、一年間笑って、まめに過ごせるようにという願いから、蕷と豆殻（わらとまめがら）を燃やしてお雑煮を作ったそうです。

具材には、豆腐、祝大根、金時人参、里芋が入れられ、白味噌仕立てのお雑煮です。豆腐は蔵が建つようにとの願いが込められ「白壁」を意味し、野菜もお餅も、家族円満を願い、総て輪切りにしています。そして極め付けは、お餅に黄粉を塗しています。これは、お米の豊作を願うものとされています。

### 香川のお雑煮

香川県、取り分け高松地域のお雑煮は一風変わっています。香川県の瀬戸内沿岸は、雨量が少ないことから、江戸時代に製塩、綿、そしてさとうきび栽培が行われ、「讃岐三白」と呼ばれていました。然し、砂糖は貴重品であったことから、一般の家庭ではなかなか口にすることが出来ないものでした。然し、年に一度、とっておきの砂糖をお正月に頂こうという風潮が生まれ、「餡餅雑煮」として頂くことになったそうです。私達の間では、「お雑煮が甘い？」と思うかもしれませんが、塩味と甘味が絶妙に絡み合った味に仕上がっているそうです。



また、当地では、嘗て讃岐地方に流された崇徳上皇のもとへ、京都から往来する方々に依って、白味噌が伝わり、香川のお雑煮は白味噌仕立ての餡餅雑煮となりました。

### 東京のお雑煮

それでは東京のお雑煮はどんなお雑煮なのでしょう。

嘗ての江戸文化の中で、お餅は角餅で焼いたものを使ったと思われます。出汁は澄まし出汁で、鰹・昆布を用いたと考えます。具材には、大根、里芋、小松菜を入れるものが通例で、鶏肉や蒲鉾も入っていたかもしれません。恐らく、大根は名産の亀戸大根か練馬大根であったのでしょう。私達の暮らす西東京のお雑煮も、それに近いものであったと推察できます。



## 我家のお雑煮が一番！

実は、日本の中でもお雑煮が郷土料理として存在していない地域があります。それは、北海道と沖縄です。然し、北海道には明治以降多くの方々が移り住み、皆さんが各地のお雑煮をその地に根付かされました。今では、東北から九州まで、様々なお雑煮が北海道に存在しています。然し、残念ながら、沖縄にはお雑煮が存在しません。

お雑煮が日本国中で発展した背景は、神事や信仰に依る処が大きいと思われれます。そうした神事が沖縄に無かったことが、沖縄にお雑煮が存在しなかった理由だと思えます。然し、お雑煮こそ沖縄にありませんが、豚の内臓を使った中身汁や、白味噌汁であるイナムドゥチ等を頂き、皆で新年をお祝いする風習は存在しています。

お雑煮のお話を伺う時、皆さんは胸を張り、各地のお雑煮のお話をして下さいます。それこそ「食のお国自慢」であると思うものです。近年、自宅で食事を作らないご家庭もあると聞きました。仮に、コンビニ弁当でも、ウーバーイーツでも、是非お雑煮を食してみてください。その地域に根差したお雑煮である筈です。



私達、一人ひとりに暮らしがあり、「我家の味」があります。皆さんのご自慢のお雑煮は、母の味であり、婚家の伝統の味であるのでしょうか。大勢の食卓でも、独りの食卓でも、人は美味しいものを頂く時、思わず幸せな表情になるものです。その集まりこそ、「我街の食文化」に他ならないと思えます。どうか皆さんも、各地のお雑煮と共に、人々の暮らしや文化に思いを馳せては如何でしょう。きっと、新しい世界が広がるものと思えます。

大内俊 (S57 経院)



## 開催されたサークル活動等をご紹介します

2024年9月から12月に開催されたサークル活動等をご紹介します。  
様々なサークルが活発に活動しています。

### 9月28日神宮野球応援会が開催されました

2024年秋季の神宮野球応援会は最終週の慶早戦の行われる11月9日、10日が西東京三田会は、西東京市民まつりに参加することになっており重なってしまいました。

慶法戦のときも連合三田会大会に参加する予定の週です。

そこで、2024年秋季リーグ応援会は9月28日（土）

慶明1回戦で開催しました。

最近のこの応援会は大概3塁側外野席でした。

しかし今回は初めてとなる1塁側外野席です。

風景が随分違います。

参加者は内野席に伊勢尚一、外野席に稲月喜一、稲月充子、樋口明朗。



試合は、ずっと劣勢で進行。

5回裏に横地選手の2ランで一度追いつくも8回にまたリードされた。

相手のヒット数は二桁、それでも大量点に結びつけさせなかったのが良かった。9回裏2死、あと1死でゲームセット。ここで次の打者が清原選手、まさに役者です。センター後ろの一番深いところに放り込む大ホームラン。明治側はあつけにとられたことでしょう。

この日は球場がプロ野球併用日なので延長戦は無し、この日の第一試合の早法戦も3:3の引き分け、2試合とも同じ点数での引き分けという珍しい場に遭遇しました。

樋口明朗（S43 経）



9月30日～10月6日

写真・作品展が開催されました

令和6年9月30日から10月6日まで、柳沢公民館ロビーで第19回西東京三田会写真・作品展を開催しました。会員とその家族だけでなく、近隣三田会や早稲田大学稲門会の皆様の日頃の創作活動の一端を見ていただきたく機会が年々広がっています。

近年は写真よりもアクリル画、油彩画、水彩画、日本画、ボタニカル・アート、版画などが増加しています。今回は32名の方が合計48点の多様で個性的な作品を出品されました。

早稲田大学西東京稲門会、慶應義塾大学杉並三田会、小平三田会の方々や西東京市日中友好協会を通じて東京国際ドリームアート（子供たちの夢を芸術で表現する）コンクールへ参加した中国と韓国の児童たちの作品も寄せていただき、国際的な展示になりました。女性会員の作品も増えました。

初日に展示後、内覧会で作者から作品に込められた思いを伺いました。近隣の公民館活動や図書館利用のために来られた方々に見ていただきました。毎日10人近くの方が熱心に作品をご覧になっていました。展示を通じて三田会会員相互だけでなく、一般市民や協力三田会、稲門会の方々との交流の機会になればと思っています。稲門会の方とは10数人お会いしました。

最終日には、撤収作業終了後に4名で柳沢駅前のお蕎麦屋さんで打ち上げ会を催し、いろいろな話で盛り上がりました。来年開催の折には、三田会会員の皆様の気軽な参加・ご来場を関係者一同お待ちしております。





以上  
高橋信一 (S47工)



## 写真・作品展に出品して

先日9月30日から10月6日まで、柳沢公民館1階ロビーにて第19回西東京三田会写真・作品展が開催されました。会場には水彩・アクリル・油彩・日本画・写真・木彫り等40点以上の作品が並び、私は初めての展示参加をさせていただきました。

柳沢公民館のロビーは広く明るい空間です。図書館や公民館が一体となった会場なので、多くのご来場者が足を止めて鑑賞されていました。会員作品の鮮やかな写真や、精密な絵画、個性的な立体作品などを楽しんでいただけたようです。

私はアーティストとして20年ほど立体造形作品を制作していますが、美術館や大きな展示会場での改まった展示と違って、西東京市の方々に気軽に作品を鑑賞していただける良い機会になったと思います。

今回も多くの方々の三田会関連の方々（早稲田大学西東京稲門会・慶應義塾大学小平三田会・杉並三田会・西東京市日中友好協会様）の作品展示のご協力とお力添えがあったとのことで、展示数も多いように感じました。

作品を作ることは自分自身の刺激になりますが、このような発表の場があることはとても素晴らしいことです。

節目としての発表の場を一つの目標にして、ぜひ多くの西東京三田会の皆様に作品を制作して出品していただきたいと思います。私も引き続き次回の展示を一つの目標に、これからも作品を制作していきます。

★近日、東京ソラマチ（東京スカイツリー内）にて作品を展示予定



福澤博美 (H9 法)

## 10月8日カラオケ会が開催されました

10月8日火曜日、寒暖差激しいここ数日、この日は一日中雨模様で涼しい天気でしたが7名が参集しました。

牛島康朗、大内俊、西野弘文、樋口明朗、皆川雅紀、宮本敬一、吉川潔です。

42曲、全員が5～7曲くらい歌い、盛り上がりしました。

樋口明朗 (S43 経)





## 10月13日麻雀の会が開催されました

2024年10月13日、第5回の麻雀の会でした。年初スケジュールでは20日でしたが連合三田会大会のため1週間倒しされました。

本日の参集者は、牛島康朗、栗原幸雄、佐藤貢一、高梨勇一、原護、樋口明朗、堀進、皆川雅紀、森茂樹、横田正満の10名。

結果は、成立が2卓だったので3位賞はなく、優勝：横田正満、2位：皆川雅紀でした。

樋口明朗 (S43 経)



## 10月20日連合三田会大会に参加しました

2024年10月20日、恒例の連合三田会大会である。前日までは夏日、この日は平年並み、これはさすがに寒い。

横田8時、皆川(卒業50年)・樋口9時、渡辺11時。

8~9時に少し雨、高校校舎前の樹下に拠点、その後晴れてきたが記念館前には既に席はとれない(高校教室も確保してあったが、教室では盛り上がりがない)。この拠点、風の通り道の入り口だった。空コップはもちろん軽めのものには吹き飛ばされる。この風には閉口しました。

昼前後に急に次々に会員が参集。



古賀、伊勢、添田、佐藤、吉川夫妻これで10名に。

続いて自撮り得意の横山、

その後、宮本・行田。

会員参集者なんと合計13名!

記念館前も大賑わい、特設ステージも大賑わい!

熊本・能登の支援イベントがありました。

立寄り者計は場所貸しもあつての会員外の方含め20名以上となりとても盛り上がりました!樋口明朗 (S43 経)





## 10月27日散策の会

### 「払沢の滝と手打ちらめん」を開催しました

2024年10月27日（日）、後から衆院選に割り込まれてしまいましたが、無事予定参加者13名が参集しました。

拝島駅のJR線改札前に10時半集合し、JR五日市線、西東京バスと乗り継いで、払沢の滝入口で下車・散策開始です。ゆるやかな坂を上り20分ほどで払沢の滝に到着。滝つぼの周りは岩がゴツゴツしていて足場が不安定でしたが無事に集合写真を撮りました。払沢の滝を見学したあとは今日のメインイベント？の手打ちらめん「たちばな家」へ。予約できない老舗で、一度に入店できるかが当初からの心配でしたが、幸い全員が一度に入店できました。みなさんお酒とともにモチモチのらめんを堪能していました。

参加者は、大内俊、宮本敬一、横田均、吉川潔・敏子、高橋幸三、橋本諭、牛島康朗、佐藤貢一、稲月喜一と稲門会の馬道哲、幹事の原洋一・樋口明朗の13名。

次回の散策の会を企画中です。おたのしみに！



樋口明朗（S43 経）

## 10月29日ゴルフ会が開催されました

10月29日西東京三田会ゴルフ会の第39回（慶早ゴルフ会としての第5回）のゴルフコンペが高坂カントリークラブ・岩殿コースで開催されました。

当会のゴルフ会は第1回が平成15年11月26日に高根カントリー倶楽部で開催されて以来、年に2回開催し、今回第39回を迎えました。また令和4年11月の第35回からは西東京稲門会との共同開催で交友ゴルフ会も兼ねて開催しています。今回は三田会、稲門会合わせて32名の参加と賑やかな会となりました。また近隣の三田会、稲門会からもご参加いただき交流の輪も広がっています。

当日は雨天の心配もありましたがプレイ中は雨も降らず、皆さん大いにゲームを楽しんでいました。



ご高齢のメンバーも多い中でしたが全員が無事にプレイを終えました(最高齢はS10年生のMさんでした)。

新ペリア競技の結果、優勝は西東京三田会のTさんでした。西東京三田会メンバーとしては交友戦での初めての快挙となり西東京三田会の面目躍如となりました。

表彰式の締めは恒例の『応援会』交換で肩を組んで『若き血』『紺碧の空』を熱唱しました。

次回第40回は来年の5月頃の開催を予定しています。皆さんの奮ってのご参加をお待ちしています。



宝井繁夫 (S52 商)

## 11月9日、10日の 市民まつりに出店しました

### みんなで作る市民まつり～盛況のなか3回目の出店～

コロナ禍による3年間の中断を経て、再開2回目となる第21回西東京市民まつりが、11月9日・10日の両日、好天のもと、いこいの森公園を主場として開催されました。

当会は、令和元年の初参加以降、昨年度に続き通算3回目の出展となります。

今年度の出店は137ブース。コロナ禍以前にはまだ及ばないものの、対前年比では8増。大学関係でも、慶早明法中の5大学に加え、創価大学が復帰して計6ブースの参加となりました。

事前に数次のPRをして会員に参加を呼びかけたことも効を奏し、二日間で、会員延べ45名、塾員19名がブースを訪問してくれました。

他大学との貴重な情報交換や交流、会員やそのご家族との親睦、

懇談、塾員や会員関係者の来訪など、ブースには入れ替わり立ち替わり人が出入りして盛況この上なし。

加えて、9名(10月上旬に行った市内塾員への勧誘活動による入会希望者も含む)もの塾員が新たに入会、という朗報も届きました。

ここ2回の参加で、参加のスタイルはほぼ定着してきました。新入会員勧誘等のノウハウも軌道に乗りつつあると思います。





来年度に向けては、飾りつけや展示の工夫（例えば、外来者の見やすい通路付近に親しみやすい行事写真のパネルを展示するなど）や、テント内に入りやすい雰囲気づくりなどに心掛けるとともに、将来的には、多くの関係者の訪問で狭隘感の増したブースの増設、或いは、展示ブースとは別建てでの他大学との協働も視野に入れた飲食ブースの設置等も検討課題となるでしょう。

さて、ここで今年度のトピックをひとつご紹介しましょう。それは、これまで一週間ずれていた、市民まつりと早慶戦（六大学野球）の日程が、ぴったり重なってしまったことです。

そこで、急遽、試合の途中経過をブース内に掲示することとし、2試合とも試合終了までの経過を速報しました。

三田会のブースは134番。その右隣が明治大学校友会、左隣は西東京稲門会。早慶明それぞれの関係者がそれぞれの立場で途中経過に一喜一憂しながらの二日間となりました。

かねてより「早慶戦は戦前の下馬評で劣勢を伝えられるチームが、しばしば予想を覆して勝ち点を挙げる」と言われていますが、今回はまさしくそのジンクス通りとなりました。

慶應の連勝で優勝を目前にした早稲田は、明治との優勝決定戦に臨まざるを得なくなりました。結果は早稲田が見事、有終の美を飾りましたが、明治の健闘も称賛に値するものでした。



#### \*閑話休題

西東京市では、脱炭素社会の実現に向け、市民一人ひとりが環境にやさしい行動を実践することを目的とした「にしとうきょう環境チャレンジ」を令和6年6月から実施中です。

市民まつりにおいても、飲食物・食品を販売する出店者が、来場者に対してゴミとなるプラスチック製品を一切提供しない場合、出店料を割り引くなどの特典が与えられています。また、市民まつりのスローガンとして「出店者の皆様へプラスチックごみ削減の協力を呼びかけ、来場者の皆様へもごみの削減を呼びかけ、市民まつり全体でごみの削減を目指す」ことを掲げました。

当会においても、ゴミ処理にあたっては「分別」を徹底するとともに、プラゴミの総量を少しでも減らしていけるよう改めて心がけていきたいと思えます。

終わりに、塾員センターからは、昨年同様、ガイドブック2025、塾生新聞、機関紙「塾」を送付していただきました。

また、会長、顧問はじめ関係各位の皆様から、種々差し入れ、陣中見舞いを賜りました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

市民まつりにまだ行ったことのない、そこのあなた、来年度こそ是非とも会場に足をお運びください。そのついでで結構です。もし時間に余裕があれば、西東京三田会のブースに顔を出していただければ幸いです。



佐藤貢一 (S48 経)



## 慶早戦観戦記

2024年秋季リーグ戦は10月20日の法政戦で勝ち点を落とした時点で、2016年秋から続いていたAクラス（3位以内）からの陥落が確定していました。11月9日からの慶早戦は「何とか意地を見せて頂きたいという期待」という意味で、個人的に注目するカードとなっていました。

神宮での観戦ができた1回戦は、清原選手が4安打の活躍、水鳥選手が本塁打、そして2年生の渡辺和大投手が完投勝利を飾り、早稲田エースの伊藤樹投手をリーグ戦での防御率争いでも抜き去るという偉業を達成しました。渡辺和大投手は高松商業出身であり、高松商と聞くと1988年入学の私は2学年上の主砲・大森剛選手を思い出さずにはられません。素晴らしい選手でした。

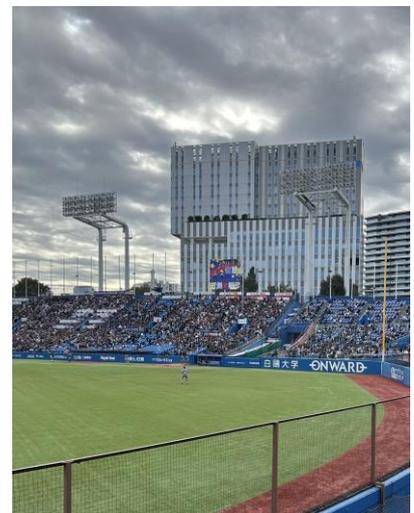
そして翌日2回戦は、スマホでの観戦になってしまいましたが、1点先制されたあとの4回に本間主将の前日に続いてのタイムリーヒットで同点とし、8回に1年生林選手の犠牲フライで逆転すると、9回裏には前日完投した渡辺和大投手がストッパー登板し、首位早稲田から勝ち点を奪うことに成功しました。

この2試合でともに絶好の場面でタイムリーを放った本間主将についての最近の記事を紹介させていただきます。本間主将は大阪生まれの奈良育ちで、中学時代に全国大会に出場したうえに、推薦入試で慶應高に進学し、2年秋からは主将となり、「戦う集団」を追求したそうです。しかしながら彼が高3時の2020年・夏の甲子園大会が新型コロナウイルスのため中止。そしてその3年後である2023年夏に慶應高校が甲子園優勝を果たします。そして、大学グラウンドを訪れた高校での恩師である森林監督が彼に語ったというコメントが感動的でした。

「本間の代のコロナで野球ができなかったこと……いろんなことがつながって、今年日本一になれたんだよ」

この言葉は、決して大袈裟なものではない深み、繋がり、凄さを感じるとともに、高校・大学と二度の主将という重責を担った本間颯太郎選手の最後の慶早戦快勝にも通じる何かを感じました。

行田健二（H4 経）





## 應美会参観諸話

先日（11月12日）に、銀座で開催されていた「應美会」の展覧会を往訪致しました。

場所は例年同様で銀座の画廊「ギャラリー暁」ですが、今年は、OBの岡本太郎さんをはじめ、著名なOBの方々の作品も展示されていまして、そして今年は何と言っても、主催の義塾パレットクラブの会長は、当会会員の吉川さんです。

筆者が往訪した折、偶々吉川さんがいらっしゃり、様々なご説明を伺うことが出来ました。当三田会からも、多くの皆様が應美会を参観されたことと存じます。皆様のお好きな絵画（作品）と接し、且つ義塾を身近に感じられる貴重な機会であったと思います。

来年以降も、義塾パレットクラブの活躍を祈念するものです。

大内俊（S57 経院）



## 11月12日カラオケ会が開催されました

11月12日、定例のカラオケ会です。

8名の会員と会員知人1名の計9人が参画しました。

会員の参加は、牛島康朗、大内俊、高梨勇一、中野秀夫、樋口明朗、皆川雅紀、宮本敬一、吉川潔です。

長老もご参加され、みなさんお元気です。

歌われた楽曲は43曲でした。

樋口明朗（S43 経）





## 12月10日カラオケ会が開催されました

2024年12月度、2024年最後のカラオケ会です。  
大勢参集しました、会員9名と会員知人の塾員・稲門  
会員を加え11名です。

歌い、飲み、様々な懇談があちこちで花開き充実した  
3時間でした

参加会員は、新入会の大石喜義が初参加で、牛島康朗、  
大内俊、中野秀夫、西野弘文、樋口明朗、皆川雅紀、  
宮本敬一、横田均の各氏。

クリスマスソングから始まり若き血まで44曲歌い切り  
ました。



樋口明朗 (S43 経)

## 12月15日麻雀の会が開催されました

12月15日 午後1時～5時30分 Pじゃんで開催しました。

14名の方が集まりました。3組での盛況でした。

1位 高梨さん、2位 伊勢さん、3位 森さん、  
BB 渡辺さんでした。

本年度はコロナ後の調整期間でもあり会員の出場  
回数にバラツキが多かったため、年間グランプリは  
行わず今回の会の褒賞を増加させていただきました。

来年度は年間グランプリを復活し、褒賞等の充実  
を図っていきたいと考えております。

皆様の多数回のご参加をお待ちしております。

2025年度の予定は、2月16日、4月6日、6月8日、8月10日、10月5日、12月7日  
に予定しております。



原護 (S45 法)



## 開催予定の活動をお知らせします

2025年1月以降に開催予定のサークル活動やイベント等をお知らせいたします。

まだ日程が決まっていないためご案内できませんが、山梨バスツアー、散策の会、麻雀会、ゴルフ会、カラオケ会、観桜会などの企画が進行しています。決まり次第、みなさまにご案内いたしますので楽しみに！

### 1月26日（日）新年会

今年度は新たな試みとして会場をひばりが丘の素敵なお店で新年会を開催いたします。おひとりでも多くの方に参加いただき旧交を温める機会にできるよう準備しています。みなさまのご参加をお待ちしております。

日時：1月26日（日）14時から16時まで  
場所：イタリアン酒場 HARUTA ひばりヶ丘店  
会費：5,000円

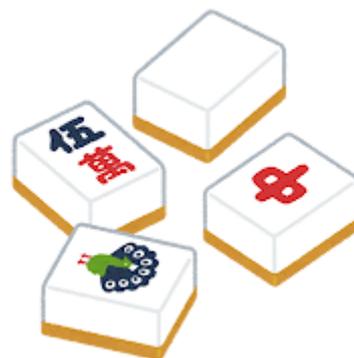


まだ**出欠の連絡をしていない方は1月15日までに西東京三田会事務局**にお知らせください。連絡先：西東京三田会事務局 [nishitokyo.mitakai@gmail.com](mailto:nishitokyo.mitakai@gmail.com)

### 2月16日（日）麻雀の会

新年最初の麻雀の会を開催します。  
参加希望の方は幹事へご連絡ください。

日時：2月16日（日）13時から17時ころまで  
場所：西東京郵便局北側の「Pジャン」



幹事：原護 090-8807-7508 [hara.mamoru08414@gmail.com](mailto:hara.mamoru08414@gmail.com)



## 友好団体との交流を紹介します

### 12月15日 東村山三田会 X 'mas パーティー

12月15日高橋幸三さんと東村山三田会のクリスマスパーティーに参加しました。

この会合は忘年会でも新年会でもなくクリスマスパーティー。そう名付けているだけあって、エンタメ（アトラクション）のオンパレードでした。

14時開催で、東村山三田会給田（たいた）会長と来賓の東村山稲門会町田会長の挨拶があると程なく1発目のアトラクションとして、塾の津軽三味線サークル「弦音巴（おとは）」のメンバー6人による演奏が始まりました。全国大会で4位を収めたとかだけあって、力強いバチさばきで7曲ほどの演奏で楽しませてくれました。



2発目のアトラクションは、上野姉妹によるキーボードとボーカル、それに給田会長のバイオリンが加わった「デュオの会」のミニコンサート。給田さんのバイオリンは芸歴70年以上とかで玄人はだしの腕前でした。クリスマスソングなど数曲を聴いたり、皆で歌ったりのコンサートでした。



16時過ぎたところで、ビンゴ大会開始。景品は洋酒、鉢植えの花（シクラメンとベゴニア）、KEIO 応援指導部ユニフォーム着用テディベア2体セット、アクセサリ、袋入り菓子など。ビンゴが完成した人から好きな景品を選べる方式。鉢植えは瑞穂町のシクラメン街道と呼ばれている岩蔵街道沿いの生産農家から入手したようでした。例年鉢植えから無くなるどころが今年は洋酒やテディベアから消えていったとは司会者の弁。全員に景品が渡ったところでビンゴ大会は終了しました。

締めめの校歌・応援歌は DVD 画像を流して、斉唱する計画だったようですが、高橋さんのタレコミがもとで、私に指揮とエールをしてくれとの依頼。他所の三田会で指揮するなんて僭越なこととはできないと思ったものの、ビンゴ大会の景品をもらった手前、結局、指揮・エールやってみました（2校分）。

最後に集合写真撮影があり17時ころ終了しました。

なお、このパーティーの様子は既に東村山三田会のホームページに掲載されています。

[https://hm-mitakai.pinoko.jp/22\\_Xmas2024.html](https://hm-mitakai.pinoko.jp/22_Xmas2024.html)

宮本敬一（S46 工）



## そのほかのお知らせ

### 山梨バスツアー延期のお知らせ

みなさまにご案内しておりました「山梨バスツアー」につきまして、諸般の事情により今春に延期となりました。

楽しみにして下さっていたみなさまには残念なお知らせとなり申し訳ございませんでした。みなさんに楽しんでいただけるよう計画しています。

日程、行程等が決まりましたら再度ご案内いたします。

楽しみにしていただけると幸いです。

西東京三田会事務局 [nishitokyo.mitakai@gmail.com](mailto:nishitokyo.mitakai@gmail.com)



### ニュースレター34号(2024年10月1日)のお詫びと訂正

新ニュースレター34号(2024年10月1日)におきまして、編集・校正に不十分な点がありましたのでお詫びするとともに訂正いたします。

不愉快に感じられた方におかれましては申し訳ございませんでした。今後はさらに精度を上げた編集を行ってまいります。

訂正箇所：ニュースレター34号 P.3、6行目

誤：まだ抜け出した感がありませんでしたから

正：まだ抜け出した感がありませんから

ニュースレター編集委員 [nishitokyo.mitakai@gmail.com](mailto:nishitokyo.mitakai@gmail.com)



## 編集後記

2024年は桜の開花が前年に比較して遅かったり、真夏の異常なまでの暑さや紅葉も1ヶ月遅れかと思えばスキー場開きのニュースが早々と聞こえてきたなどと気候の変動が多い年でした。年々、年の瀬を感じる機会も少なくなりましたが、急激に冷え込む今日この頃です。今まではコロナ禍で忘年会や新年会も自粛されていた方が多かったようですが、個人的にもお誘いを頂く機会が増えたように思いますので人の動きも活発になった気がします。



会社をお辞めになった方々の必需品は「キョウヨウとキョウイク」と言う言葉を聞きました。最初は何を言っているのか理解できませんでしたが、「今日、用事がある」と「今日、行く処がある」の意味だと聞いて納得した次第です。当三田会にはいろんなサークルがありますが、NLの各号には実施報告が目白押しです。麻雀・カラオケ・グルメ会・野球応援・ゴルフ会・ブルーベリー摘み、散策の会、・・・etc。是非、興味のある方はお誘いの連絡が来た際には当該サークルに連絡を入れて頂いて積極的に参加しませんか。健康な毎日を過ごす秘訣は、愉快的な仲間との会話で有り適度な運動と言われています。今年こそ、もっと楽しい日々が過ごせるようにサークル活動に参加しませんか。連絡先が不明の場合は、このNLが送られてくる西東京三田会事務局のメールアドレスにご一報下さい。各サークルのリーダーをご紹介しますので、お気軽にお問い合わせ下さい。新年に向けてのサークル活動へのお誘いを新春の編集後記として書かせて頂きました。是非とも新規サークルへのご参加をお待ちしています。(こ)

### 編集委員

井上京子、丑山佐枝子、大内俊、行田健二、高橋幸三、森茂樹、横田均

令和7年1月1日